

第10章

更なる基盤づくりに向けて

第10章では、地域福祉施策の推進の更なる基盤づくりに向けて、踏まえておくべき項目について説明しています。

内容

- 1 地域福祉と持続可能な開発目標（SDGs）
- 2 とよたローカルゴール

更なる基盤づくりに向けて

1 地域福祉と持続可能な開発目標（SDGs）

- 「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月の国連サミットで2030アジェンダが採択され、2030年までに世界中で達成すべき事柄として掲げられました。17の大きな目標と、達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。
- 本市は、内閣府よりSDGs達成に向けた取組を先導的に進めていく自治体「SDGs未来都市」として選定されています。地域福祉においても、SDGsの視点を持って、超高齢社会の進展などの課題に対応していく必要があります。



【特に本計画と関連が強いもの】

目標 1：貧困をなくそう



あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

目標 3：すべての人に健康と福祉を



あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標 8：働きがいも経済成長も



包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

目標 10：人や国の不平等をなくそう



各国内及び各国間の不平等を是正する

目標 11：住み続けられるまちづくりを



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう



持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

2 とよたローカルゴール

- 豊田市第9次総合計画では、ミライ実現戦略2030の終了年が、SDGs達成を目指す年と同じ2030年であることから、それぞれの方向性を連動させて取組を進めることとしています。
- 本市の2030年のあるべき姿の実現のためには、SDGsが求める持続可能な経済、社会及び環境の三側面に加えて、市民一人ひとりの心身の豊かさも一層大切にすることが必要です。この観点から、SDGs推進だけでは充足しきれない「市民の心の豊かさ」に焦点を当てた、本市独自の横断的な目標（とよたローカルゴール）を新たに設定しました。
- 「とよたローカルゴール」の実現により、本市が多くの人々から選ばれ、人口減少に歯止めをかけることで、地域の活性化につながると考えます。
- 本計画においても、「とよたローカルゴール」は、市民一人ひとりが自分らしく暮らし、互いに支え合える地域共生社会の実現を目指すうえで、重要な方向性となっています。



L1

子どもたちが夢と希望をもち、自らのミライを切り拓く力を育む

持続可能なまちづくりのためは、次世代を担うこどもの育成が必要不可欠です。子どもたちがミライに向かって夢と希望を持ち、心豊かに暮らせるよう、「こども起点」、「こども視点」で施策の在り方を考え、まちづくりを推進します。



L2

誰もがつながり合い、様々な体験と感動を通じて、地域への愛着と誇りを持っている

地域や多世代によるつながり合いの中で、本市ならではの様々な体験や感動は、わたしたちの暮らしを豊かなものにしてくれます。本市に関わる全ての人々が、本市や自分が居住する地域に対して愛着や誇りを感じられる地域社会を作ります。

